

# 研修トレーナーの1Patient体験記①

はじめまして。製薬企業向けのトレーニングを担当している、Nです。

「1Patient」を研修ツールとしてどのように有効活用するか、日々考えています。

製薬企業向けのトレーニングを担当するには、現状に合わせた内容、そしてツールを使用する必要がありますよね。

時代は進み、現在トレーニングを提供する私たちが、MRとして医療現場と関わっていた頃とは、大きく活動環境が変わっています。医療従事者と各症例について詳しくお話をすることも少なくなったのではないのでしょうか。そのため、MRの皆さんは医師とのコミュニケーションにおいて、経験の中から『症例ベース』のやり取りを十分にできない環境にあることは、想像に難くないところです。

1Patientとは、実際の電子カルテデータを取り込んであり、研修担当者はもちろん、学習する方々も電子カルテのデータを直接ご覧いただける研修ツールです。

『症例ベース』のやり取りがしにくい現在も、1Patientを通して、実際の症例から学ぶことができます。症例のデータに触れられれば、MRそれぞれが、疾患・治療に関する着眼点を養うことができます。1Patientを利用することで、自ら学習してくれる形になるのが、研修担当者としては望ましい形ですね。

一方で、疾患・治療に関する着眼点を養うにあたっては、研修担当者が十分にリードしていくことも必要だと思います。1Patientに含まれる症例は、まさに本当の、生きた症例です。でも、症例の詳細を見るだけでは、「こういう症例があるのか」とただ、読むこと・知ることによって終わってしまいそうです。トレーニングとして成果をつかむには、内容を理解し、実際の医療従事者とのコミュニケーションで活用できるように導くことが重要だと思っています。疾患とその治療についての基礎的な知識は、各企業で十分な研修が行われていますから、1Patientで、実際の症例でどのように展開されているかを理解して、医療従事者とのコミュニケーションに活かしてもらえたら何よりです。

1Patientでは、実際に病院で診察・治療をうけている患者様のカルテから、医師・看護師と患者間のやり取りや、検査値の経過、服薬履歴など、本物の診療記録を見ることができます。ぜひMRトレーニングの場面で役立てていきたいものです。

今回は、1Patientを活用したトレーニング上の着眼点について触れる予定です。

## トレーナーNの略歴

『まもなく五十路を迎える男性トレーナー。製薬企業における人材育成・研修担当として20年以上、MRの育成にかかわる。MR・マネジャーの成長が何よりの喜び。』